



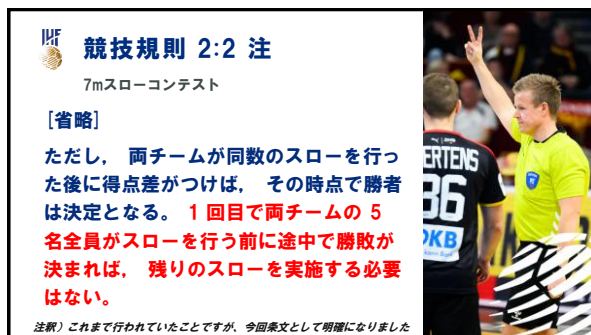
1



2



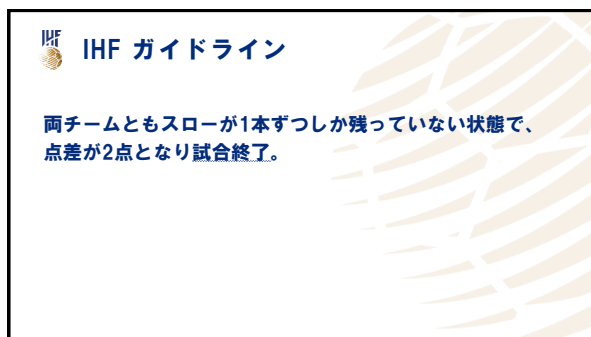
3



4



5



6



7



## 競技規則 5:4

ゴールキーパーがボールを持ってゴールエリアを離れる

ゴールキーパーには、次の行為は許される。

[省略]

**身体やボールを十分にコントロール**できていない状態で、ボールと共にゴールエリアを離れ、プレーイングエリアで再びプレーすること。



8



9



## IHF ガイドライン

ゴールキーパーはゴールエリアを離れる前に、「ボールをコントロール」していなかった。  
(シュートを止めた後、キャッチしようとしたが「つかみ損ねた」)

<判定> そのまま競技を続行させてよい

10



11



## IHF ガイドライン

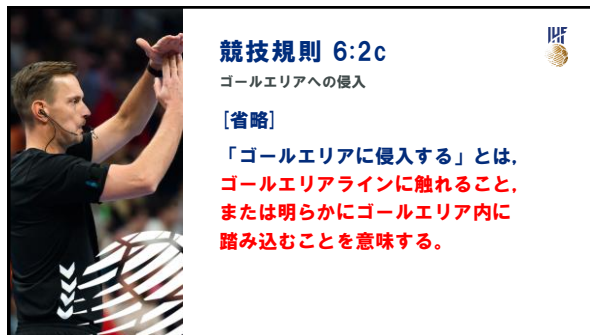
ゴールキーパーはボールをコントロールしていたが、ゴールエリアを離れる前に「身体をコントロールする」ことができなかった。

<判定> そのまま競技を続行させてよい

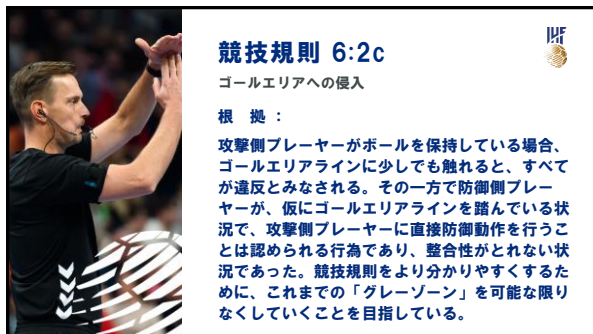
12



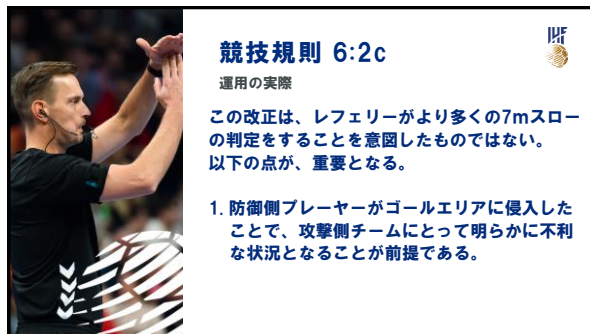
13



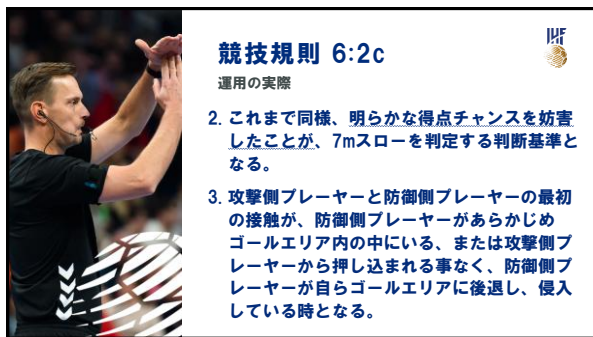
14



15



16



17



18

## IHF ガイドライン

右バック（48番）が突破を試みるが、ゴールエリア外で左2枚目の防御側プレーヤーに違反される。  
この違反により、攻撃側プレーヤーはゴールエリアライン上にいる1枚目の防御側プレーヤーと接触している。1枚目の防御側プレーヤーはスペースを塞ぐ際、ゴールエリアライン上に立っており、ボールと体をコントロールした状態でシュートを打つという明らかな得点チャンスを奪っている。

<判定> 7mスロー

注釈）これまでは「グレーゾーン」として、フリースローを判定していました



19

20

## IHF ガイドライン

1枚目の防御側プレーヤーは、**最初に**ゴールエリアの外側でボールと逆の方向から攻撃側プレーヤーと接触したが、相手の正面に位置を取っていない（**違反である**）。その後、攻撃側プレーヤーの正面に位置を取るが、その時、防御側プレーヤーの右足はすでにゴールエリアライン上にあり、このとき攻撃側プレーヤーは、すでに明らかな得点チャンスを得ていた。

<判定> 7mスロー



21

22

## IHF ガイドライン

2枚目の防御側プレーヤーは、ボールと逆の方向から攻撃側プレーヤーと接触した際、左足で明らかにゴールエリアラインを踏んでいた。つまり、防御側プレーヤーがゴールエリアに侵入したことで、明らかな得点チャン스가失われたことになる。

<判定> 7mスロー



23

24



## IHF ガイドライン

1枚目の防御側プレーヤーは、攻撃側プレーヤーの正面に移動する際に、ゴールエリアに触れている。止まった時には、片足をゴールエリアライン上に置いた状態で、相手の正面に位置している。

防御側プレーヤーは防御動作中、体のどの部分でもゴールエリアラインに触れ、明らかな得点のチャンスを妨害した場合、防御側プレーヤーがその責任を負うことになる。

<判 定> 7mスロー

25

## 競技規則 7:3

26

### 競技規則 7:3

ステップ

次の行為は許される。

[省略]

3. 他のプレーヤーからボールを受け取った後、あるいはドリブル後にボールをキャッチした後、ボールを持って最高3歩まで動くこと(13:1a)。プレーヤーの両足が床についていない状態で、空中でボールを受け取る、あるいはキャッチした後、片足または両足で同時に床に着地しても、1歩とは数えない。次の場合に1歩動いたと見なす。 [省略]

27

### 競技規則 7:3

ステップ

根 拠 :

ゲーム構造に影響を与えることなく単純化する。パスを受け取った後と、ドリブル後のキャッチした後のステップに関するカウント方法が異なることは、ハンドボールの観点から、整合性がとれない内容であった。

28

### 競技規則 7:3

ステップ

実用化 :

「ゼロ ステップ」の概念は、プレーヤーがドリブル後、ボールをキャッチした瞬間に、両足が床と接していない(空中でボールをキャッチした)場合にも適用される。

29



30

### IHF ガイドライン

攻撃側プレーヤーはドリブルしたボールを空中でキャッチし、右足（0歩）、左足（1歩）、右足（2歩）と踏み出し、左足（3歩）でジャンプしている（※これまでは、ドリブルの後の「2歩（1,2）+2歩（3,4）」としてステップを判定していました）。攻撃側プレーヤーの前方にスペースがある状態で、ゴールエリアライン上に立っていた1枚目の防御側プレーヤーがジャンプすることによって、明らかな得点チャンスを妨害している。

<判定> 7mスロー

31



32

### IHF ガイドライン

攻撃側プレーヤーはボールをドリブルさせ、両足が床に接していない状態でキャッチし、右足で着地した（0歩）。その後、3歩進んで（1,2,3歩）からジャンプしている。違反は認められない。

<判定> そのまま競技を続行させてよい

33



34

### IHF ガイドライン

攻撃側プレーヤーはボールをドリブルさせ、両足が床に接していない状態でキャッチし、右足で着地した（0歩）。その後、3歩進んで（1,2,3歩）からジャンプ（左 → 右 → 左）した。違反は認められない。

<判定> 得点を認める

35



36

**IHF 競技規則 8:8d**  
頭部へのシュート

**[省略]**

(d) ゴールキーパーとの1対1の状況で打ったシュートがゴールキーパーの頭部に直撃した、あるいは7 m スローの実施に際して、シュートを阻止する目的でボールの方向へと頭部を動かしていないゴールキーパーの頭部にボールが直撃した。

(e) 競技規則 2:4 による終了合図後のフリースローの実施に際して、シュートを阻止する目的でボールの方向へと頭部を動かしていない防衛側プレーヤーの頭部にボールをぶつける。



37

**IHF 競技規則 8:8d**  
頭部へのシュート

**根拠：**

ゴールキーパーとの1対1の状況でのシュートは、より強く、より近い距離から放たれることが多い。どのようなシュート体勢であってもゴールキーパーに対する危険性は同じであり、頭部へのシュートの直撃は、2分間の退場の判定で等しく罰せられるべきである。



38

**IHF 競技規則 8:8d**  
頭部へのシュート

**注：**

例外的に、レフェリーがその行為が計画的かつ/または特に無謀であると判断した場合、競技規則 8:6 が適用される。



39

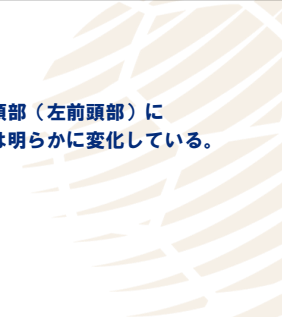


40

**IHF ガイドライン**

ボールは、ゴールキーパーの頭部（左前頭部）にあたっており、ボールの軌道は明らかに変化している。

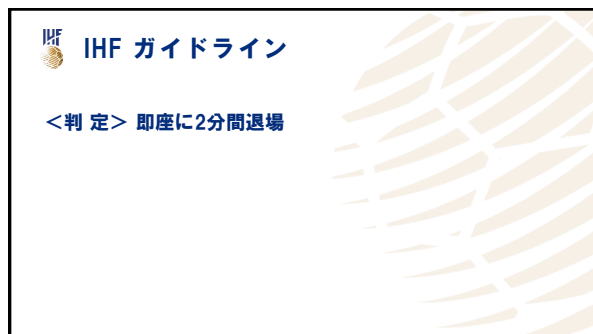
**<判定> 即座に2分間退場**



41



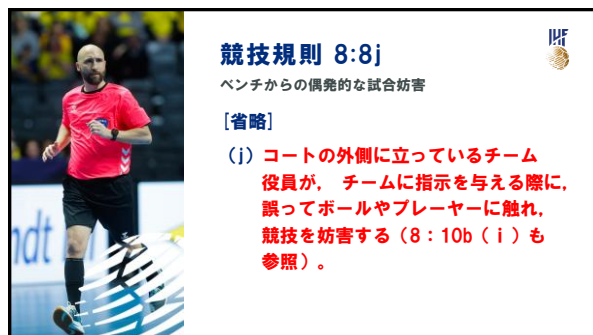
42



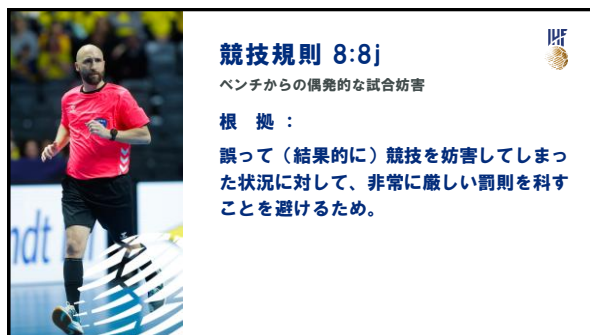
43



44



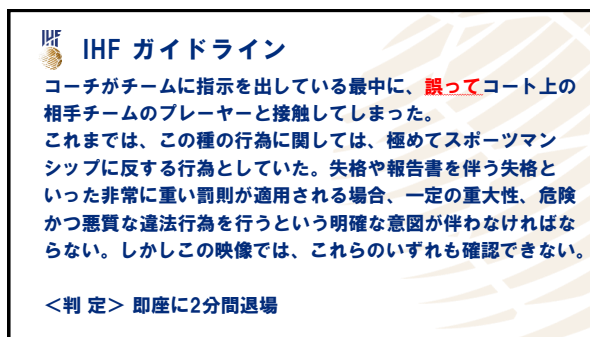
45



46



47

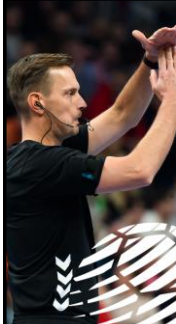


48





49



**競技規則 10:3b**  
スローオフの実施

(b) スローオフエリアを設置したコートでのスローオフ

[省略]

- ボールとスローを行うプレーヤーが完全にスローオフエリアの中にあるとき、レフェリーはスローオフの笛を吹くことができる (15:6)。



50



51



**IHF ガイドライン**

レフェリーによるスローオフの笛の合図の瞬間、ボールと攻撃側プレーヤーの片足が、スローオフエリアの外側にある。

<判定> レフェリーは、スローオフの笛を吹くことはできない

52



53

**概要 攻撃時のゲーム時間 (カラーコードシステム)**

**解釈 4 - パッシブプレー**

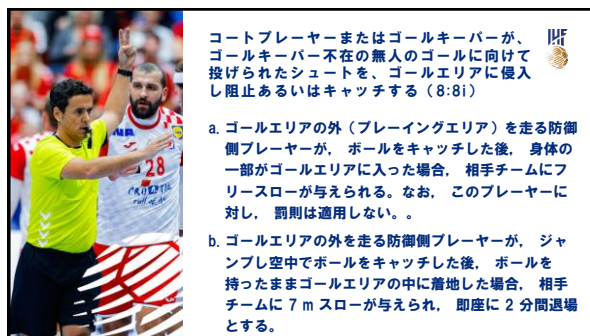
キーポイント:

- ◆ ゲーム構造は、消極的なプレースタイルを評価するための基礎となる
- ◆ 消極的な傾向を評価するための、より正確な観察の基準
- ◆ 消極的なプレースタイルでの戦術的状况
- ◆ 「より短い組み立て局面」を評価する際の、新たな正しい基準
- ◆ 時間をかせぐための目的にすぎない攻撃活動
- ◆ パッシブプレーの予告合図を示す際のガイドラインと基準
- ◆ 直接 (予告合図なしに) パッシブプレーを判定することができる特別な状況

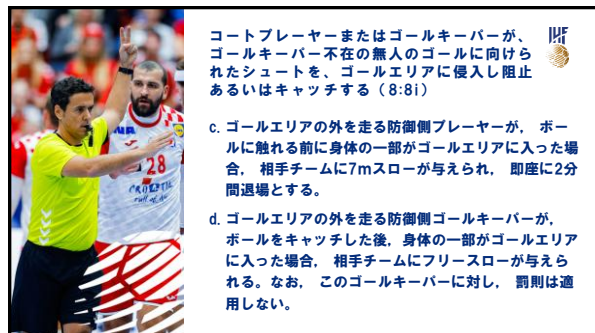
54



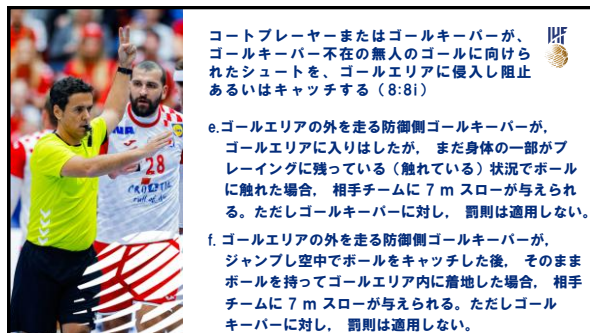
55



56



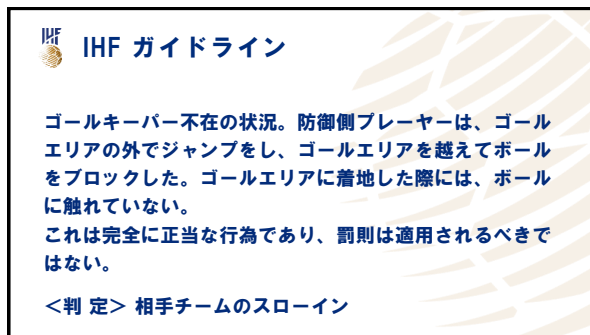
57



58



59



60



61



## IHF ガイドライン

ゴールキーパー不在の状況。防御側プレーヤーは、ゴールエリアの外でジャンプをしボールをキャッチ、ボールを持ったまま、**まず**ゴールエリアの外に着地、**その後**、ボールを持ったままゴールエリアに入った。

<判定> 相手チームのフリースロー  
当該プレーヤーに対し、罰則の適用はない

62



63



## IHF ガイドライン

ゴールキーパー不在の状況。防御側プレーヤーは、ゴールエリアの外でジャンプをし、空中でボールをキャッチした後、ボールを持ったままゴールエリアの中に着地した。

<判定> 7mスロー  
当該プレーヤーに対し、即座に2分間退場を適用

64



65



## IHF ガイドライン

ゴールキーパー不在の状況。ゴールエリアの中に立っている防御側プレーヤーは、そこからジャンプして無人のゴールへのシュートを阻止した。

<判定> 7mスロー  
当該プレーヤーに対し、即座に2分間退場を適用

66





67



## IHF ガイドライン

ゴールキーパー不在の状況。ゴールエリアの外を走る防御側ゴールキーパーは、ジャンプしてボールをキャッチした後、**まず**ゴールエリアの外に着地した、**その後**、ボールをコントロールしながら、ゴールエリアの中に入った。

<判定> 相手チームのフリースロー  
当該プレーヤーに対し、罰則の適用はない

68



69



## IHF ガイドライン

ゴールキーパー不在の状況。ゴールキーパーは、ゴールエリアの外でジャンプし、空中でボールをキャッチした後、ボールを持ったままゴールエリアの中に着地した。

<判定> 7mスロー  
当該プレーヤーに対し、罰則の適用はない

70



## ビデオ判定の導入（9:2）

得点の取り消しは現行では次のスローオフまで（9：2）となっているが、ビデオ判定の導入によって判定が必要とされる場合、より長い期限が必要となる。その期限を、**2回目のボール所持の変更、またはボール所持の変更につながるスローが実施された直後までとする。**  
詳細については、「ビデオ判定システム規定」を参照にすること。



71



72



## IHF ガイドライン

緑2番がシュート中、防御側プレーヤーの腕が頭部にあたった。レフェリーは、この違反がレッドカードに該当するかどうか、確信を持てなかった。その後、2回目のボール所持が変わった直後、レフェリーはビデオ判定システム規定第8項に基づき、VRを用いて状況を確認するため試合を中断した。理想的には、レフェリーは違反直後に試合を中断すべきである。

<判定> 2回目のボール所持が変わった直後まで、VRの使用が可能（映像の状況で、VRを用いることは可能である）

73



74

## IHF ガイドライン

数人の選手がリバウンドを狙ってジャンプしている。防御側チーム（黒チーム）がボールを所持する前に、防御側プレーヤーが攻撃側プレーヤーの顔面を平手でたたいた。レフェリーは、その後競技を続行させ、得点が決まった後、次のスローオフが行われる前に、VRを使用するために競技を中断させた。規定上、この状況で競技を中断させる権利はレフェリーにはあるが、理想としてこの判断は、違反の直後直ちに行われるべきである。また、顔面への接触はレッドカードに相当するほどの強度はないため、レフェリーの解釈は誤っている。しかし、これは事実判定であり、最終的なものである。

<判定> VRは、レフェリーが次のスローオフの笛を吹く直前、つまり2回目のボール所持が変わった直後まで、使用可能である

75



## 不正交代および不正入場におけるアドバンテージの利用（13:2）

速攻中も含め、攻撃側チームが明らかな得点チャンスの際、防御側チームが競技規則 4:4-6（不正交代または不正入場の場合）に規定される不正なコートへの入場を行った場合、違反したプレーヤーが明らかな得点チャンスを直接妨害していない限り、レフェリーまたはテクニカルデレゲートは、明らかな得点チャンスが終了するまで、競技規則 13:2 に従ってアドバンテージルールを適用する権利を有する。この状況下でアドバンテージルールが適用された場合は、競技規則 8:10 (b) の (ii) は適用しない。

根拠：  
違反行為が、勝利の手段として利用されないため

76



77

## IHF ガイドライン

攻撃側チームの速攻中に、防御側チームの余計なプレーヤーがコートに入ってきた。テクニカルオフィシャルは違反に気づき、攻撃側がシュートを放とうとした瞬間に笛を吹いた（これまでの競技規則であれば、余計なプレーヤーがコートに入った時点で即座に競技を中断しなければならなかった）。今回の競技規則の改定でテクニカルオフィシャルは、速攻時等の攻撃中は、明らかな得点のチャンスが完了するまで笛の合図を待たなければならない。ただし、この規定はレフェリーおよびテクニカルオフィシャルのみに与えられた権利であり、ローカルのタイムキーパー、スコアキーパーが気づいた場合は、これまで通り、直ちに笛を吹き競技を中断しなければならない。

78



79



**状況 No.9**  
競技終了前30秒間

レフェリーが、7mスローの判定、**罰則**、またはボール所持の変更につながる判定について疑問を抱いた場合。

根拠：  
フェアプレーとして認められるハンドボールのイメージ向上のため、試合の勝敗を決定づける場面で、正しい判定を導く可能性を保障する。



80



81



**IHF ガイドライン**

センターバックが1枚目と2枚目のディフェンスの間の小さな隙間を攻めた。隙間を閉じる際に2枚目の防御側プレーヤーは、攻撃側プレーヤーの顔面をたたいた。試合の行方を決定づける場面であり、レフェリーが罰則に疑問を抱いた場合、この状況でVRの使用が認められる。

**<判定> 攻撃側チームのフリースロー  
防御側プレーヤーの2分間退場**

82



83



**IHF ガイドライン**

ゴールヘシュートする前に、ピボットプレーヤー（黄6番）が3枚目の防御側プレーヤーのうちの1人のシャツを引っ張った。この違反により、2人の防御側プレーヤーが衝突した。レフェリーが攻撃側の違反を判定した際、攻撃側が放ったシュートはゴールに入った。勝負を決定づける場面である。この状況でVRを使用できる。ただしこの状況では、レフェリーは明らかな得点のチャンスが終了するまで競技を中断するのを待つべきである。

**<判定> 攻撃側の違反、防御側チームのフリースロー**

84



85



## IHF ガイドライン

競技終了前30秒間、レフェリーはパスシブプレーの予告合図を示す。予告合図が示された後、攻撃側は2回のパスをする。3回目のパスの後、まず防御側プレーヤーがボールをキャッチ（コントロール）し、前方にパスしたボールを攻撃側プレーヤーと防御側プレーヤーがボールを争い、攻撃側プレーヤーがボールを保持した。この状況は、防御側チームは一度ボールを所持し、その後攻撃側チームがボールを奪い返しているため、ボールの所持が変更になる可能性はなく、「ボール所持を確認するため」のVR使用はできない。ただし、「パスシブプレーの予告合図がまだ有効であるか」については、勝負を決する状況であるため、VRにより確認することができる。映像では、ディフェンダーがボールを一度コントロールし、ボールの所持が変わったにもかかわらず、パスシブプレーの予告合図が継続となっている。ボールの所持が一度変わっているためレフェリーは、パスシブの予告合図を取り消す必要があった。

<判定> パスシブの予告合図は取り消す、攻撃側チームのフリースロー

86



87



## 第 8 項

プレーヤーによって、ブザーボタンが押される

（チーム役員として登録されていない）プレーヤーが、ブザーボタンを押してチームタイムアウトを要求した場合、以下の罰則と判定が適用される。

- ブザーボタンを押したプレーヤーに対して、競技中断時の状況に応じて競技規則 4:6 もしくは 8:10b に基づき罰則を適用する。
- インプレー中に中断された場合、その時点で違反を犯したチームがボールを所持していたならば、相手チームのフリースローで、競技を再開する。中断のときに相手チームがボールを所持していたならば、相手チームに 7 m スローを与える。
- 不正にチームタイムアウトを請求したチームは、チームタイムアウトの請求権を1つ失う（これにより当該チームのチームタイムアウトの請求合算数が、1つ減ることになる）。

88



89



## IHF ガイドライン

競技終了間際に、（チーム役員として登録されていない）プレーヤーがブザーボタンを押してチームタイムアウトを要求したが、これは認められない。チームタイムアウトを要求し、ブザーボタンを押す権限があるのは、チーム役員のみである。

ブザーボタンが押された時点で相手チームは、明らかな得点チャンスではなかったため、当該プレーヤーは即座に2分間退場となる。チームタイムアウト電子申請システム規定第8項では、ブザーボタンが押された時点でボールがインプレー中であつた場合にのみ、ボールの所持を変える。

<判定> チームタイムアウトは認めず、青チームのスローオフ  
ブザーボタンを押した青10番を即座に2分間退場とする

90